

中 北 海 道 現 代 俳 句 協 会

会 報 82号

平成30年
4月3日発行

方では反戦、専守防衛など自己の戦争体験を吐露しつつ社会の動向への心掛かりを率直に訴えるなど、此れまでの現代俳句を牽引して来られた功績は計り知れません。ここにその死を悼み心よりご冥福をお祈り申し上げます。



金子兜太先生を偲びつつ

辻 協 系 一

先 の 原 稿 を 入 稿 後 に、 金 子 先 生 の 逝 去 が 報 じ ら れ た。 少 し 前 に 誤 報 の 訂 正 な ど が 在 っ て 重 篤 が 案 じ ら れ た が、 現 実 に 成 っ て し ま わ れ 誠 に 残 念 と い う ほ か は あ り ま せ ン。 先 生 が 北 海 道 現 代 俳 句 協 会 の 行 事 へ 来 ら れ た の は 昭 和 五 十 六 年、 近 年 で は 平 成 二 十 三 年 の 北 海 道 現 代 俳 句 大 会（ 四 地 区 連 合 ） で あ っ た。 そ の 以 前 に も 海 程 の 道 大 会、 句 碑 の 建 立 な ど、 ご 縁 の 都 度 お 会 い す る 機 会 が あ っ て、 豪 放 な 印 象 の 一 方 で 細 や か な 気 配 り を 戴 い た 事 が 懐 か し く 思 い 出 さ れ る。

思 い 返 し て も「 社 会 性 と は 態 度 の 問 題 」「 季 語 も 言 葉 で あ る 」 な ど 単 なる 前 衛 に 止 ま ら ず「 も の 」 や 社 会 的 な「 事 」 を も 踏 ま え、 韻 文 の 効 用 や 力 と 共 に 詩 的 造 形 へ、 又、 ア ミ ニ ズ ム へ も 届 く 風 土 性 や 人 間 愛、 自 在 な 思 考 世 界 を 句 に 構 築 さ れ た。 一

た い と 思 い ま す。 以 後 は 私 事 に 渡 り ま す が、 小 生 が か ね て よ り 希 望 し て い た 会 長 職 を 退 任 し、 先 の 総 会 で 新 体 制 と し て 会 長 に 五 十 嵐 秀 彦 氏、 事 務 局 長 を ふ じ も り よ し と 氏、 副 会 長 の 臼 井 千 百 氏・ 四 方 万 里 子 氏 に つ い て も、 石 本 雪 鬼 氏・ 亀 松 澄 江 氏 へ と 交 代 す る か た ち で 承 認 を 戴 き ま し た。 四 分 割 以 前 の 昭 和 五 十 一 年 か ら 一 時 期 は 総 務 と し て、 平 成 五 年 か ら は 中 北 海 道 現 代 俳 句 協 会 の 事 務 局 長、 そ の 後 副 会 長、 会 長 と、 非 力 な が ら 無 事 勤 め さ せ て 頂 き、 感 無 量 な も の が あ り ま す。 こ れ も 会 員 各 位 の 助 言 や ご 協 力 が 在 っ て の 事 で、 こ の 場 を お 借 り し て 心 か ら 感 謝 を 申 し 上 げ、 又 ご 指 導 を 戴 き な が ら、 す で に 鬼 籍 に 入 ら れ た 多 く の 諸 先 輩 の ご 冥 福 を と 思 わ ず に は お ら れ ま せ ン。 こ こ に 多 く の 方 々 へ、 心 か ら 感 謝 の 意 を 持 っ て 退 任 の 挨拶 に 替 え さ せ て 戴 き ま す。 有 難 う ご ざ い ま し た。

平成三〇年度

総会及び新年交流会の記

金子 真理子

H30・2・3
於 すみれホテル

総会は立春前日のピリリと身の引き締まる寒気の中、三四名が出席し、五十嵐秀彦事務局長の司会で開かれた。冒頭物故者への追悼の黙祷が捧げられ、辻脇系一会長から、今回は年会費の見直しと役員の改選という二つの議題があり十分に審議して頂きたいと御挨拶があり、田湯岬氏が議長に指名され議事に入った。平成二九年度の事業報告等議案三件が承認され、次いで平成三〇年度予算審議に先立って懸案事項である年会費の値上げについて審議が行われ、今後の有意義な活動のため二千円とする案が承認された。尚、納入の振込用紙を会報82号送付時に同封、手数料は会員負担となった。長年中北海道現代俳句協会に御尽力いただいた辻脇系一会長、白井千百・四方万里子両副会長の勇退に伴う役員の見考が選考委員方式で行われ、新会長に五十嵐秀彦氏、副会長に石本雪鬼氏、亀松澄江氏、事務

局長にふじもりよしと氏、監査に齋藤雅美氏が、また辻脇系一氏、白井千百氏については顧問の立場でこれからも支えていただくこととなり、平成三〇年度事業計画案等いずれも可決された。

引き続き鹿岡真知子氏の軽妙な司会で新年交流会が行われ、各テーブル会員同士和やかに交歓の時を過ごした。勇退される辻脇会長には亀松澄江氏より、白井副会長には鹿岡真知子氏より花束が贈呈された。北海道新聞社俳句賞佳作を受賞した瀬戸優理子氏には五十嵐秀彦氏より、現代俳句評論賞受賞の松王かをり氏（当日欠席）にも御自宅へ花束が贈られた。最後に辻脇系一前会長より俳句を作る人たちが協力し合い組織が一つとなり、より一層発展してほしいとの言葉を頂き、石本雪鬼副会長の乾杯で、一同一つとなり終了となった。



第18回中北海道現代俳句賞受賞作品



受賞者 ^{まつ おう}松王かをり氏
プロフィール

1956年 奈良生まれ、現在札幌在住
2004年 「圭」(津田清子主宰、2012年終刊)入会
2013年 「銀化」(中原道夫主宰)入会
2017年 銀化第37回現代俳句評論賞受賞

「銀化」同人、現代俳句協会会員、
予備校古文科講師

耳の曲線

松王かをり

凍裂へせつに降り込む春の雪
流水接岸一村の螢光す
すれ違ふ薄刃のごとき受験生
丸め持つ自画像二枚卒業す
花疲れ目蓋の裏の騒がしく
囀の天蓋となる楡大樹
恐竜のみごとな透き齒風光る
背徳の夜蛤の吐く金の砂
自叙伝に曲筆のあり亀鳴けり
あかときの水の匂へり抱卵期
夏は来ぬハーブソルトを振る皿へ
水の影束ね噴水立ち上がる
銀輪を握め捕りたる葎かな
喉仏ほどを吐きたり批把の種
短夜や濡れジーンズのごと疲れ

生き死にのことは語らず祭鯉
夏逝かせ水平線のごと眠る
玄室は風鳴るばかり曼珠沙華
木守柿ち小さき棺の出でゆけり
傘さして傘取りにゆく秋の暮
檸檬ふたつ影を重ねて相寄らず
長くなりさう夜寒の電話鳴つてゐる
核心を微妙にはづすマスクかな
吹雪の夜地下鉄といふ風にをり
夜の火事見て来し眼洗ひけり
一湾をねぎらふやうに冬の虹
冬景色遠近法を失へり
脚立立て冬の銀河を拭いてゐる
一枚づつ皿の絵違ふ女正月
目でなぞる耳の曲線冬うらら

磯

園 田 夢 蒼 花

略歴

大正二年（平成一三年）享年八八才
上川郡美瑛村生まれ。現代俳句協会北海道地区会議議長 北海道俳句協会会長
北海道文学館副理事長 等歴任 句集「火を放て」他三冊

母の町なり緑陰至るところにあり

誰か来て無礼な声に火を放て

ある日掏摸ばらを掏らむとしてめざむ

風の間のその束の間のこほろぎ馬車

眼帯の中をさくらのとき過ぎゆく

永野 照子 記

〔青のフロント〕佳句抜粋

大志などなくて海鼠の囁み心地

松王かをり

冬眠の獣寝返る赤い月

瀬戸優理子

恋人と三日も会っていない蜜柑

村上 海斗

湖凍ててまだ広がってある宇宙

音無 早矢

命あるものは手を上げ草の骨

辻脇 系一

幹 事 会 報 告

平成29年11月16日(木)18時 かでる2・7 760号室
議題

1. 俳句研究交流句会結果報告（組織活動部）
 - ・一句の事前投句採用は出席者増の為、好評。担当の雪嶺からの意見を検討。
 - ・平成30年度は9月29日(土)文学館地下講堂予定
2. 30年度総会議案検討、新年交流会について（事務局）
 - ・平成30年2月3日(土)14時、於 すみれホテル
 - ・会 費 5,000円
 - ・案内状は一人一句集の投句と合わせて、ふじもり担当
 - ・総会資料作成 高畠(1月幹事会前に製作)
 - ・役員改選・年会費値上げの件
3. 27回中北海道現代俳句大会について（事業部）
 - ・平成30年4月1日(日)ホテルサンプラザ
 - ・会 費 5,000円
 - ・講 演 松王かをり氏
「鶏頭の庭、子規は何を見ていたか」
4. 中北海道現代俳句賞について（組織活動部）
 - ・締め切り 12月15日
 - ・選考委員会 1月27日(土)かでる2・7
 - ・選考委員 (五十嵐・鈴木き・辻脇・永野・臼井・横山・渡辺)
5. 会報（広報部）
 - ・12月5日発行予定
 - ・定形の郵便物として、折った状態で送付
6. 第27回北海道現代俳句大会（事務局）
 - ・北海道担当
 - ・日 時 平成30年6月10日(日)
 - ・講 演 宮坂静生 現代俳句協会会長
 - 出席者 〈辻脇・臼井・五十嵐・江草・原田・林・鹿岡・亀松・福田・遠藤・高畠・有田・青山・瀬戸・ふじもり・金子 以上16名〉

平成30年1月18日(木)18時 かでる2・7 503号室
議題

1. 年度総会・新年交流会について（事務局）
 - ・日 時 平成30年2月3日(土)14時
 - ・会 場 すみれホテル
 - ・新年交流会費 5,000円
 - ・総会資料の確認 役割分担
 - ・花東授受の確認 幹事会費13時 受付開始13時30分
2. 中北海道現代俳句賞について（組織活動部）
 - ・応募数 17篇
 - ・選考委員会 1月27日(土)9:30～
かでる2・7 530号室
 - ・選考委員 (五十嵐・鈴木き・辻脇・永野・臼井・横山・渡辺)
3. 一人一句集について（広報部）
 - ・担 当 ふじもり 校正は広報の校正と一緒に
 - ・会報82号と同封
4. 会報82号について
 - ・4月上旬発行予定 巻頭言 辻脇氏 総会、新年交流会の記録 金子真理子氏
中現俳賞は一次選考通過者のみの表とする。
会費の振込用紙同封する。
5. 第27回中北海道現代俳句大会について（事業部）
 - ・日 時 30年4月1日(日)13:00
 - ・会 場 ホテルサンプラザ
 - ・懇親会会費 5,000円
 - ・講 演 「鶏頭の庭～子規は何を見ていたか～」
松王かをり氏「銀化」同人、「雪華」会員、「itak」幹事
6. 第27回北海道現代俳句大会について（事務局）
 - ・主 管 北北海道
 - ・日 時 平成30年6月10日(日)13:30
 - ・場 所 アートホテル旭川
 - ・懇親会会費 5,000円
 - ・投句メット 3月20日
 - ・講演 現代俳句協会会長 宮坂静生氏 演題未定
7. 俳句研究交流句会について（組織活動部）
 - ・日時変更 平成30年9月24日(月・祝)
 - ・場 所 文学館地下講堂
 - 出席者 〈辻脇・臼井・五十嵐・江草・林・鹿岡・亀松・遠藤・高畠・有田・青山・瀬戸・ふじもり・金子 以上14名〉

第27回北海道現代俳句大会のご案内

- | | |
|---|---|
| <p>1 日時・場所
平成30年 6月10日(日)午後2時～
受付 1時、1時30分からの写真
撮影までにおいでください。
アートホテル旭川
旭川市7条6丁目
電話 (0166) 25-8811
大会費 1,000円(写真代込み)</p> <p>2 講演
演題 「北海道の時間
——俳句とは何か」
講師 現代俳句協会会長
「岳」主宰 宮坂静生氏</p> <p>3 講評 特別選者 ほか</p> | <p>4 表彰
北海道現代俳句大会賞 ほか</p> <p>5 懇親会
大会に引き続き同会場で、16時から行います。
会費5,000円(当日、受付にて申し受けます。)
※懇親会出席を御希望の方はお問い合わせ下さい</p> <p>6 投句
受付は終了しています</p> <p>7 問い合わせ先
〒078-8320
旭川市神楽岡10条1丁目2-2
加藤 ひろみ
電話・FAX (0166) 65-0820</p> |
|---|---|

会 員 動 向

<新会員>
・大西 寿子
(辻協 系一氏 推せん)
〒005-0823
札幌市南区南沢3条3丁目3-16
TEL (011) 571-8075

<退 会>
・小林千恵子 ・福原 静香
・山上 耕三 ・水谷 郁夫
・渋谷 栄子 ・水谷 谷ミエ
・生源寺雅恵

会員数 127名
(平成30年 2月28日現在)

「青のフロント」句会のご案内

日時 偶数月第2土曜日13～16時
場所 かでる2・7
席題 1句 当季雑詠2～3句
問い合わせ先 (011) 852-7014
五十嵐秀彦

発行人 五十嵐秀彦
発行所 中北海道現代俳句協会
〒064-0952
札幌市中央区宮の森2条8丁目1-18
ふじもりよしと方

編集人 青山 酔鳴
〒061-1354
恵庭市島松旭町4丁目9-1
早川様方
TEL 090-3398-3457
江草 一美
〒003-0838
札幌市白石区北郷8条3丁目
6-36-703
TEL 011-874-3049

◆事務局たより

二月三日、総会で前年度の事業報告及び決算報告と今年度の事業計画・予算案の承認頂きました。また辻協会長、白井副会長が勇退され、新会長に五十嵐秀彦氏、副会長に石本雪鬼氏、亀松澄江氏が選任され、事務局長にふじもりよしとが選任されました。微力ながら職務に当たりたいと考えておりますので何卒よろしく御願います。上記の他、今年度から、会場費の値上げ、郵便料金の値上げ、会員減による収入減により収支の圧迫があり、やむなく会費の増額の承認頂きました。堅実な予算遂行させて頂く覚悟です。御了承頂きますよう御願ひ申し上げます。

編集後記

この度、組織活動部から広報部に異動した会報の作成に係わることになりました。不勉強・力不足ですがよろしくお願ひします。若手新会員が入会されました。協会の今後の活動に弾みがつきそうです。会員の受賞も続いています。縦横につながる良い時間を持って、俳諧を自由に実践する良い時間を無駄にせぬよう努めたいと思います。(青山酔鳴)

金子兜太名誉会長がお亡くなりになられた。
「犬は海を少年はマンゴの森を見る」(兜太)

今年の現代俳句カレンダーの表紙を飾った句である。骨太なダイナミックな句にどれだけ勇気を貰えたことか。まさに「巨星墜つ」である。さて中現俳ま新体制となり、スクラム組んで一歩ずつ歩んで行きたいものである。(江草